



自 2024年 4月 1日
至 2025年 3月31日

2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の事業概況についてご報告いたします。

[1] 芸術文化や厚生福祉等に対する助成（公益目的事業 1）

(1) 厚生文化事業金銭助成

金銭助成は、上半期と下半期を合わせて 24 件の申請を受け付けました。

上半期には、La foret（ラ・フォレ）他 5 団体に 98 万円の助成を行いました。同様に下半期は、西山花守交遊会他 11 団体に 182 万 9 千円の助成をおこないました。

結果、助成件数は前年比 7 件増、助成金額は 37 万 9 千円増となりました。

上半期：高知新聞 2024 年 3 月 30 日付に掲載

下半期：高知新聞 2024 年 9 月 28 日付に掲載

(2) 名義助成

「黒木雪音ピアノ・リサイタル 高知公演」（2024 年 4 月 26 日開催）、

「第 1896 回トヨタコミュニティコンサート in ゆすはら座 四国フィルハーモニー管弦楽団 雲の上のコンサート」（2025 年 3 月 23 日開催）に名義助成を行いました。

[2] 地方史の調査・研究に対する賞の贈呈（公益目的事業 2）

(1) 平尾学術奨励賞の贈呈

第 45 回平尾学術奨励賞を東近 伸氏の「キリシタン史料等から見た四万十川（渡川）合戦と一条兼定の動向」に贈呈しました。2023 年に発表された歴史、歴史地理、民俗、考古などの分野の著書、論文約 301 点を対象に選考委員 4 氏が審査のうえ候補を推薦、理事会で決定したものです。

高知新聞 2024 年 5 月 18 日付に掲載

[3] 新進音楽家の顕彰及び音楽賞の贈呈（公益目的事業 3）

(1) 高知音楽コンクールの開催

下八川圭祐記念 第 48 回高知音楽コンクールは 11 月 3 日、高知県民文化ホールで行われ、各賞を選出、賞状・副賞を送りました。

出場者は 18 人（一般・大学生 7 人、高校生 11 人）で、参加者数は前年度比 1 人増となっております。

高知新聞 2024 年 11 月 4 日付に掲載

(2) 「交流の響き」への派遣

前年度上位入賞者を派遣している「交流の響き 2024」(神奈川新聞など主催/高知新聞社共催)が9月21日に開催され、第47回コンクールで下八川賞2位を受賞したピアノ奏者の氏原大貴さんが出場しました。

高知新聞 2024年9月22日付に掲載

[4] 災害時における義援金の取扱い(公益目的事業 4)

(1) 災害時における義援金の取扱い

今年度の災害における義援金の取扱い業務はありませんでした。

[5] 記念事業の実施(公益目的事業 5)

周年等記念にあたる公益目的事業はなく行いませんでした。

[6] 各賞の受賞者等のための食事会の開催(その他の事業 1)

- (1) 平尾学術奨励賞(公益目的事業 2)においては、5月17日の贈呈式後に開催しました。
- (2) 高知音楽コンクール(公益目的事業 3)においては、11月3日コンクール終了後に開催しました。

[7] 公益信託に関する業務の委託(その他の事業 2)

(1) 「高知新聞・高知放送」『生命(いのち)の基金』(以下、「生命の基金」) 寄付金受入に関する業務

現金持参による寄付金受入は12件(うち個人1件、団体11件)、

振込による受入は7件(うち個人1件、団体6件)ありました。

寄付金総額は、303万3640円(内訳は個人107万円、団体196万3640円)です。
前年に比べて、受入数は2件増、寄付総額では405万559円減となっております。

(2) 補助業務

助成応募を告知する記事を作成し、6月29日と10月12日の2回、高知新聞紙上に掲載しました。また、助成を決定する記事は、3月18日に掲載しました。

「生命基金」助成する諮問委員会を1月24日、それを確定する運営委員会を2月4日に開催し、それぞれの会議に専務理事が出席しました。

3月26日に助成金贈呈式を実施しました。本年度の会場の高知新聞社本社(8階ラウンジ)の設営、受付業務や贈呈補助など行いました。

2024年度 事業報告付属明細書

[1]芸術文化や厚生福祉等に対する助成（公益目的事業 1）

(1)厚生文化事業金銭助成

〈上半期〉

申請件数:8件

◇ 事業を実施した団体

件名	団体名	助成金額
Papermoon Puppet Theatre× usaginingen共同制作公演	La foret (ラ・フォレ)	300,000円
①産婦人科医師と学ぶいのちの出前講座 「おしえて先生！ 思春期の身体とところ」 ②体験型いのちの出前講座	このは助産院	220,000円
「さくら・シニア合唱団」活動事業	NPO法人 佐川町さくらスポーツクラブ	80,000円
佐竹音次郎生誕160年記念 顕彰活動二十年の足跡、研究者視点の 伝記発行	保育の父・佐竹音次郎に 学ぶ会 (通称:音次郎会)	150,000円
ビキニデーin高知2024 ー核被災フォーラム	ビキニデーin高知2024 実行委員会	150,000円
ビキニ被災70年「ビキニの海のねがい」展 ー原画 森本忠彦・写真 岡村啓佐ー	「ビキニの海のねがい」 を伝える会	80,000円
合計		980,000円

高知新聞厚生文化事業団 2024年度春の助成6団体

このは助産院
医師に学ぶ思春期性教育

[illegible]

La forêt
幅広い世代に芸術を

[illegible]

保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会
生誕160年 伝記出版へ

[illegible]

NPO法人・佐川町さくらスポーツクラブ
温かな合唱 人の心包む

[illegible]

「どき二の海のねがい」を伝える会
核のない未来願って

[illegible]

「ピキニデー in 高知2024」実行委員会
全国の反核学び連帯を

[illegible]

〈下半期〉

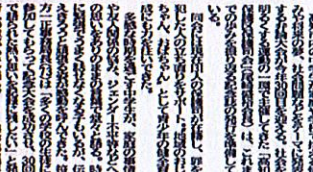
申請件数:16件

◇ 事業を実施した団体

件名	団体名	助成金額
西山花守交遊会活動拠点整備と バイカオウレン等希少植物保護活動	西山花守交遊会	250,000円
「第30回高知保護区中学校 弁論大会記念誌」発行事業	高知保護区保護司会	300,000円
高知コーラス合笑団 第63回定期公演	高知コーラス合笑団	150,000円
ホームページのリニューアル	高知県自閉症協会	200,000円
第94回日中友好の集い	NPO法人 アジア文化交流会	100,000円
クラシックバレエで楽しむ みんなのクリスマス ～もうひとつのおおきな家族～	高知プリマ会	29,000円
第20回高知香南ジュニアオーケストラ 定期演奏会(OG・OB大集合)	高知香南ジュニア オーケストラ	100,000円
劇団the.創 25回高知公演 ビキニの 海からの証—事件の重いとびらをあけ た高校生たちがいた—	劇団the.創	200,000円
第1回とさ冬祭り しだれ櫻と陶芸と野点	特定非営利活動法人 トサシカケNITARI	200,000円
「BottomとSummit」 —自分で考える／感じる—	平野史恵、濱田明李	100,000円
エキンスタイル2.1～プレイバック 「エキンスタイルとは何か」展	別役 昌彦	100,000円
企画展「世界のバリアフリー 児童図書展 2023」	認定NPO法人高知こどもの図 書館25周年記念事業 実行委員会	100,000円
合計		1,829,000円

[illegible]

中学生の熱い思い記録に



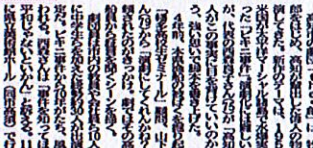
子育て世代に発信を



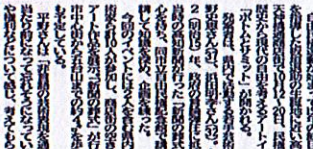
世代関係なく交流を



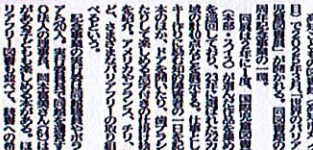
ビキニ事件を舞台化



現代の自由を考える



バリアフリー本に学ぼう



厚生文化事業金銭助成

1993年(H 5)年度～

◇累計件数
申請
助成

1320件
566件

◇助成金額
厚生文化事業
高新大賞

91,442,774円
29,400,000円

[2] 地方紙の調査・研究に対する賞の贈呈(公益目的事業 2)

(1) 平尾学術奨励賞の贈呈

2024年(令和6年)5月18日付 高知新聞

平尾賞 東近さん表彰
「地域史に光当てたい」 高知市

第45回平尾学術奨励賞の贈呈式が高知市本町4丁目の高知新聞本社で行われ、四万十市中村有崎町の歴史研究家、東近伸さん(72)に表彰盾が贈られた。

同賞は歴史家の故平尾道雄さんの業績を記念し、1980年から歴史や民俗、考古といった分野の県内研究者を表彰している。過去2回は彰彰賞がおらず、表彰は3年ぶりとなる。

東近さんは、戦国時代に幡多郡を自給して長衆我部元親に決戦を挑んだ一統兼定を、ギリシヤ史料などから再検証し、「ギリシヤ史料等から見た四万十川(瀬川)合戦と二条兼定の動向」と題する論文に基き、選考委員からは、土佐一統氏の盛衰や寺院が果たした役割など幡多地域の歴史を「多角的に考察し、精力的に研究している」と評価された。

式では、主催者の公益財団法人高知新聞厚生文化事業団の中辻雅彦理事長から東近さんに表彰盾と奨励金10万円が贈られた。高知大学の学生だった72年、平尾さんの講義を受けていたという東近さん。当時は出席日数が足りなかったが、今後も地域史に光を当てる研究を続けていきたい」と話を提出し、ようやく単位していた。

東近さんの論文は同事業団のホームページで閲覧できる。(久保俊典)

平尾道雄さんの写真の前で、表彰盾を受け取る東近伸さん(高知新聞社)

(1) 高知音楽コンクールの開催

大賞	該当者なし		
1位	式地 由衣	ピアノ	嶺北高校3年
2位	山本 志奈	バイオリン	東京音楽大学大学院修士課程1年
3位	山口 絢愛	マリンバ	土佐女子高校2年
高知音楽 奨励賞 (高校生 対象)	原 心音	フルート	土佐山田高校2年
	山本 太郎	オーボエ	中村高校1年
	友成 咲希	ピアノ	土佐高校2年

2024年(令和6年)11月4日付 高知新聞

下八川1位式地さん (嶺北高)



式地由衣さん

2位山本さん (東宮大院)

3位山口さん (壬佐女高)

4位山本さん (東宮大院)

県内生徒、出の新進音楽家が競う「下八川音楽祭」第48回高知県コンクール」が3日、高知市町4寸目の真民文化ホールで行われた。下八川賞は、ビノの式地由衣さん(嶺北高校3年)が輝いた。2位はバイオリンの山本志奈さん(東宮音楽大学院修士課程1年)、3位マリンバの山口純愛さん(壬佐女子高2年)が選ばれた。

音楽祭、弦楽祭、打楽器、ビノの4部に18人(うち高校生10人)が出場。豊かな音楽鑑賞で、

継続の成果を挙げた。全員の演奏が終了後、昨年2位の氏原大貴さんがビノを演奏。審査が各部門の購得を行い、受賞者が発表された。

下八川賞は、選出されたのは、2008年以来6年ぶり。受賞した式地さんは、クラシック・ギター・ピアノの鑑、ハイドン「ソナタ第54番、Hob. xvi. 50より、第1楽章」を披露し、審査員から「自分の音の世界があり、心の風景を音楽にしていた。本々の素直さが曲の良さに響いていて、評価された。」

初出場の式地さんが演奏した曲は、今夏参加した「ピアノコンクール」の課題曲。その時、反省書を振り返って練習に取り組んだ。

1位受賞にまだ慣れないと笑って嬉しかった。好きな曲なので、自分の思いが伝わる表現を意識した。舞踊では、緊張したはずが、弾き始めたら曲の中に入れた気持ちになって楽しかった。ですと朗らかに話した。

高校生が初の高知音楽祭、奨励賞は、フルトの原心音さん(田高2年)、オーボエの山本悠さん(中村

高知音楽コン

2024.11.4 (月)

高一年はアの友成悠希さん（土佐高年）に決まった。
同じシシルは佐川町出わり、県内農業の最前門となつてゐる。高新聞を生文化事業団と高知新聞社・RKC高知放送共同で運営している。

(徳渡哲子)

氏原さん(小津高卒)ピアノ演奏



ピアノを演奏する氏原大貴さん(川崎市のミューザ川崎シンフォニーホール＝神奈川新聞社提供)

地方紙音楽コン入賞者公演 川崎市

【東京支社】地方新聞社が主催する音楽コンクールが主催する音楽コンクールの上位入賞者が集う「交流の響き2024」が21日、川崎市で開かれた。本県からはピアニストの氏原大貴

2位(1位該当者なし)に選ばれた。この日は、ラフマニノフの「楽興の時」とシューマン「リスト」献呈の2曲を披露。情熱的かつ美しい音色で、独特な世界観を巧みに表現した。7歳からピアノを始め、現在は東京芸術大学音楽学部器楽科で学ぶ氏原さん。演奏後、「素晴らしい舞台と多くの観客の前で自分の思うような演奏ができて、楽しかったし、気持ちよかった。今後ますますな経験を重ねながら、演奏活動を続けたい」と話した。

「交流の響き」は神奈川新聞社と川崎市の主催、高知新聞社などの共催で20回目。今年は各地のコンクールで入賞するなどした10人が演奏した。

(村上和陽)

- [7] 公益信託に関する業務の委託(その他の事業 2)
(2) 補助業務

生命の基金1654万円助成
23年度決算
公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」の受託者、三菱UFJ信託銀行は25日までに、同基金の2023年度決算を発表した。助成金は28件に総額1654万円。今年3月31日現在の信託元本は5億4972万8832円となった。

2024年(令和6年)6月26日付 高知新聞



助成申し込み受け付け

7月1日～10月31日

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」は、2024年度(令和6年度)の助成申し込みを、県内から広く受け付けます。

難病や重い障害への支援・医療研究、また地域社会での顕著な看護活動などが対象。運営委員会の審議を経て、来年3月に贈呈します。「生命の基金」の助成は1989年の発足以来、多くの善意の人々からの浄財を基に行われています。奮って応募ください。

【募集期間】7月1日(月)～10月31日(木) Ⅱ郵送・当日消印有効

【助成対象期間】2025年4月1日～27年3月31日(2年間)

【助成対象者・団体】①高知県内の大学・専門学校、病院等医療機関②上記所属の研究者③高知県内で助成対象事業のサポートを行う団体

【助成金額】1件あたり上限100万円(総額2千万円程度)

【申し込み・問い合わせ】高知新聞厚生文化事業団(高知市本町3の3の39、高知放送南館8階)にある所定の用紙に資料を添えて、三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部(〒1640001東京都中野区中野3の36の16、電話0120・622372)まで提出(助成金申請書は必ず本年度の様式を使用のこと)。

※募集要項、助成金申請書は「生命の基金」ホームページ(<http://www.hochino-fund.jp>)からダウンロード(PDF形式)できます。

※助成対象事業、対象活動、成果の報告などは募集要項を参照してください。

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」

2024年(令和6年)6月29日付 高知新聞

すべての人が心豊かで健やかに暮らせるために。

みなさまの想いから生まれた

いのち 生命の基金

「生命(いのち)の基金」は、

おなかの中の赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで、
毎日、生命を守る闘いを余儀なくされている社会的に弱い立場の人たちと
その人たちを支える家族や医療、福祉関係のみなさんを手助け、
お手伝いをするために設立された基金です。

令和6年度 助成先を募集中です

【募集期間】

令和6年7月1日(月)～10月31日(木)

【助成金】

総額2,000万円、1件あたり上限100万円

<助成対象活動>

1. 大学・専門学校、研究所、病院等所属の研究者の研究
2. 大学・専門学校、研究所、病院等の診断や治療等の活動
3. 助成対象事業のサポートや福祉等を行う団体の支援活動

昭和61年4月から翌年7月まで高知新聞に掲載された、長期連載「生命は守られているか」そこで紹介された心身障がい児・者や未熟児、白血病、臓器移植、高齢者問題についての生々しい生命の闘いへの熱い共感をきっかけに、多くの県民、団体から集まった寄付をもとに、「生命(いのち)の基金」が発足しました。

医療の充実、経費を回すため
治療、研究、救済、支援活動に
取り組む人々へ援助

助成
実績

2023年度まで

383件 2億4,798万円

令和5年度の団体助成先

乳幼児・児童の子育て支援活動

- 高知大学医学部内エコチル調査高知ユニットセンター
「保護者に寄り添う子育て支援情報の周知と広報活動」

疾病がある方、またはその家族への支援活動

- 竹の子の会 プラダ・ウィリー症候群(PWS)児・者の会「PWS親子キャンプ開催」
- 高知県小児糖尿病つばの会「高知県小児糖尿病サマーキャンプ開催」
- 特定非営利活動法人みらい予想図「医療的ケアが必要な重症児者の学校卒業後の居場所づくり」
- 一般社団法人高知がん患者支援推進協議会「高知スピリチュアルケア提供者養成研修開催」

障がいがある方への支援活動

- 社会福祉法人ファミーユ高知 しごと・生活サポートセンターウェブ
「障がいのある方々の「働く」を支えるピア活動とグループ活動の促進」

思春期の生徒・学生への支援活動

- 公益社団法人高知県看護協会
「高知県の「子どもの生きる力を育むいのちの教育」の開催」

臓器移植における臓器提供などの支援活動

- 高知県骨髄バンク推進協議会「ドナー登録会・骨髄移植講演会開催」
- 特定非営利活動法人高知アイバンク「角膜提供者の増加に向けた活動」
- 高知県腎臓バンク協会「臓器移植における臓器提供者増加に向けた活動」

高齢者への支援活動

- 高知学園短期大学「歯科衛生学科の学生による元気高齢者支援活動」
- 幡多地区地域連携バス委員会「域内FLS(二次骨折予防)事業の展開」



公益信託・高知新聞・高知放送 生命の基金
いのちの基金 検索 <https://www.inochino-kikin.jp>

■受託者/三菱UFJ信託銀行

基金についての
お問い合わせ
三菱UFJ信託銀行 リアル受託業務部 公益受託課
高知新聞・高知放送「生命(いのち)の基金」担当者が
0120-622372(受付時間)平日 9:00～17:00
E-mail:koueki_post@tr.mufg.jp



2024年(令和6年)7月15日掲載(初回) 計11回掲載 高知新聞



生命の基金 24年度贈呈式 高知市

公益信託高知新聞・高知放送「生命の基金」(受託者

三菱UFJ信託銀行)の2024年度の助成金贈呈式が26日、高知市の高知新聞社で行われ、26件に計1589万円が贈られた。

同基金は医療の充実と振興を図る目的で1989年に設立。難病や障害と闘う人々や支援者、医療活動などに携わる人々を助成対象としている。2023年度

までに33件、2億4798万円を助成してきた。24年度は34件の助成申請があつ

助成対象者に目録が手渡された「生命の基金」助成金贈呈式(高知新聞社)

た。贈呈式では堀見忠司運営

委員長が各団体に目録と賞状を手渡した。助成団体を代表し「医療法人南江会一陽病院」の臨床心理士、矢部菜央さん(28)が「活動や研究が県の発展の一助となり、県民が住み慣れた地域で自分らしく、希望を持って暮らすことができるよう努力します」と謝辞を述べた。

同病院では、軽度認知障害がある人の運転能力をシミュレーターで測定し、事故を未然に防ぐ研究に活用する。(小谷 暁)

2025年(令和7年)3月27日付 高知新聞